

福岡県医発第 2546 号（地）

令和 2 年 1 月 10 日

各 医 師 会 長 殿

福 岡 県 医 師 会

会長 松 田 峻一良

（公 印 省 略）

厚生労働科学研究「Biopshychosocial に健やかな子どもの発育を促すための
切れ目のない保健・医療体制提供のための研究」におけるパイロットスタディ
について

さて、厚生労働省では、厚生労働科学研究成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業（健やか次世代育成総合研究事業）として、2018 年から「Biopshychosocial に健やかな子どもの発育を促すための切れ目のない保健・医療体制提供のための研究（研究代表者：岡 明）」を実施しております。

同研究班では、研究事業の一環として、小児期の切れ目のない Health Supervision 体制構築を目的とした、かかりつけ医による健診・保健指導のあり方の研究を進めるにあたり、パイロットスタディを日本小児科医会等の協力のもと、別添のとおり久留米市において実施するよう計画されております。

実施にあたっては、久留米市内の二種混合ワクチンの予防接種実施医療機関にご協力いただきたいとのことです。

つきましては、本件に関して、同研究班員の久留米大学小児科准教授の永光 信一郎先生が、貴会に対し予め説明に伺われるとのことですので、ご対応方ご高配賜りますようお願いいたします。

研究計画書

(医師会理事会説明用)

【研究課題名】

予防接種時の保健指導（仮称；学童思春期健診）に関するパイロット研究

【研究の背景】

小児の医療提供体制は、近年、予防接種や急性期医療の充実により大きな変容を遂げてきている。感染症の激減、急性疾患の軽症化の一方で、在宅医療をはじめとする慢性疾患のケア、生活習慣病の予防、行動障害やメンタルヘルス疾患等への対応が小児医療の中核となりつつある。生活習慣病やメンタルヘルス疾患の発症は成人期よりも学童・思春期の生活体験の影響が強いと言われている。さらにこれらを発症してからの治療にかかる費用よりも発症前の予防的支援にかかる費用の方が医療経済的側面において優位であると言われている。しかしながら、学童思春期の唯一の健康診査である学校検診は、学校生活での疾病の早期発見を目的としており、子ども達の日常生活における健康意識（ヘルスプロモーション）を向上させるには至っていない。

【研究の目的】

学童・思春期の子ども達への健康意識（ヘルスプロモーション）を向上させるために、予防接種時に医師による簡易な健康保健教育を実施する。

【期待される効果】

成人に至る前の子どものときより、子ども達自身が自ら健康意識（ヘルスプロモーション）を高めることにより生涯を通じて心身共に健全な生活が送れるようになる。

【研究の方法】

対象：	久留米市在住の二種混合ワクチン対象者
期間：	令和2年6月～8月の3ヵ月間
実施医療機関：	久留米市で定期予防接種（二種混合ワクチン）を行っている82の医療機関（内科、小児科、病院他）の内、説明会を行った後に研究協力が得られた医療機関

* 久留米市の二種混合ワクチン（11歳以上13未満）実施率は、68.7～76.9%

* 二種混合ワクチン対象者数は約3,000名

【具体的手順】

1. 二種混合ワクチン実施来院時に保護者・本人に研究協力依頼書を手渡す。
2. 協力を頂ける場合に同意書にサインを保護者から頂く。
3. 母親は通常の予防接種問診票を記載。
4. その間に子どもは健康調査票（アンケート）に回答する。
5. ワクチン接種前に担当医が健康調査票を元に健康保健指導を数分間実施する。
6. 医師は保健指導に関する資料提供をおこなう
7. 医師は指導内容項目についてチェックをおこなう（簡易表）
8. 保護者・本人は保健指導後のアンケート（簡易）に回答する
9. 協力者は記念品を受け取る。

【健康指導項目（案）】

- ☐朝食摂取 ☐スクリーンタイム ☐就寝時間 ☐運動習慣 ☐いじめ予防
☐シートベルト着用 ☐歯磨き ☐炭酸飲料水・スナック菓子 ☐勉強

【解析項目】

1. 82 医療機関中の協力医療機関数および診療科別割合
2. 保健指導に要した時間（介入毎；医師記載）
3. 保健指導をおこなった項目（介入毎；医師記載）
4. 希望する保健指導項目（介入後：本人記載）
5. 希望する保健指導項目（介入後；保護者アンケート）
6. 担当医への事業の実装化に関するアンケート調査（研究期間終了後）
7. 医療スタッフ（看護師・受付）への事業に関するアンケート調査（同上）

